

III 「新しい形のコミュニティづくり」について

第3期の地域課題である「新しい形のコミュニティづくり～地域でつながる」を実現するために、委員から出た課題解決策のアイデアを整理し、以下の3つの取組について検討しました。

「公園」を活用した新しい形のコミュニティづくり

【委員の主な意見】

- ・小さな子どもの親世代には、地域コミュニティへのニーズがありながら、町会と結びつくツールが無い。公園はそのツールの一つになり得る。
- ・公園を活用する人同士の交流の場を作る。
- ・小さな単位の集まりを統一的に「広場」と呼ぶことで、ゆるやかなつながりをつくる。

【関わりのある団体】

- ・公園管理運営協議会、公園体操実施団体、かわさき遊び場ネット、町内会自治会 等

「学校」を活用した新しい形のコミュニティづくり

【委員の主な意見】

- ・学校施設を活用する。
- ・学校の「地域の日」を設定し、地域に開放する。
- ・スポーツによる場作り、地域との関係づくりを進める。
- ・体育指導員への協力を呼びかける。

【関わりのある団体】

- ・学校、学校施設開放運営委員会、PTA、町内会自治会、子ども会、体育指導員会 等

「町会組織加入」に向けたアプローチ

【委員の主な意見】

- ・町会マネジメント講座を開催する。
- ・町内会自治会未組織地域に働きかけを行う。
- ・コミュニティに関するニーズを把握するための調査を実施する。
- ・自治会単位でのリサイクルに取り組む。

【関わりのある団体】

- ・区全町内会連合会 等

1 「公園」を活用した新しい形のコミュニティづくり

(1) 「調査活動—公園視察」とモデル地区の選定

「公園」を活用した新しい形のコミュニティづくりを推進するために、区内の公園の施設・機能の状況、利用状況、維持・管理の状況等を把握する調査活動を実施しました。当日は、あいにくの雨ながら、区内の7つの公園を巡り、地元の管理組織との意見交換を行いました。

また、平成21年度に実施した「あったらいいな、こんな遊び場！」利活用のための公園調査報告書をもとに、実際に調査を担当したかわさき遊びネットのメンバーであり、区民会議の委員でもある河村麻莉子氏を講師として、事前学習を行いました。

なお、「公園」を活用した新しいコミュニティづくりに関しては、区が取組んでいる「公園を活用したコミュニティ活性化事業」として実施することになり、平成23年度は2つのモデル地区を選定して取組を進めました。

調査活動 2011	
■開催日時	平成23年6月2日(木) 午後1時～午後5時30分まで
■調査工程	
13:00	事前学習会 「あったらいいな、こんな遊び場！」利活用のための公園調査報告書 から 講師 河村麻莉子 委員
13:30	区役所出発・公園視察 視察公園 坂戸公園・KSP自由広場、溝口南公園、 上作延第2公園、上作延農住公園、 梶ヶ谷第3公園、千年中央公園、 下作延中央公園
17:10	区役所着・調査の振り返り
17:30	終了

調査活動における事前学習及び公園視察の結果を踏まえて、平成23年度のモデル地区を以下の2つに選定しました。

■溝口南公園地区

- ⇒選定の理由：①管理運営協議会が立ち上がり清掃活動等熱心である。
②こども文化センターと隣接しており、連携の可能性を探れる。
③大山街道沿いの古くからの商店街に立地し、中心部に近い。

■坂戸公園地区

- ⇒選定の理由：①坂戸第2町内会と坂戸住宅自治会の2つの町内会自治会から管理運営協議会が立ち上がり、公園の清掃活動等を行っている。
②フリーマーケットを実施するなど、公園を活用した催しが盛んである。
③最寄駅から遠く、周辺は戸建住宅、団地、マンション等が多い住宅地に立地している。

(2) 「公園」を活用したコミュニティ活性化事業の実施手法

「公園」を活用したコミュニティ活性化事業を実施するに当たっては、以下のような手法で進めました。

①「公園ミーティング」の開催

地区内の公園の課題や今後の活用の可能性について語り合う「公園ミーティング」を、年に3回程度開催します。公園ミーティングは、公園を日常的に利用している人はもちろん、広く一般の人たちの参加を促します。

②世話人会の設置

「公園ミーティング」の開催に当たっては、公園管理運営協議会等を中心とする世話人会を組織し、企画・運営等を行います。

想定される地元組織には、以下のようなものがあります。

管理運営協議会、町内会・自治会、区民会議委員、公園体操関係者、こども文化センター、区役所 等

③庁内プロジェクトの設置

区役所内の公園に関連する部署で庁内プロジェクトを組織し、「公園ミーティング」の開催を支援します。また、プロジェクトチームのメンバーは、世話人会へ参加します。

主な関係課は以下の通りです。

企画課、地域保健福祉課、地域振興課、こども支援室、道路公園センター 等

④モデル的な取組の実施

公園ミーティングの結果をもとに、モデル的な取組を進めます。取組の推進に当たっては、イベントの開催等ソフトな内容に止まらず、安全対策、ベンチや掲示板の設置等、簡易なハード面での整備も含まれます。

■「公園」を活用したコミュニティ活性化事業の目指す方向性の例

- ・全ての活動が完全に重なり合うのではなく、ゆるやかに「つながる」
 - ・「つながり」による相乗効果（参加層の拡大、実施地区の拡大 等）を産む
 - ・福祉的な課題（子育て、高齢者支援等）とコミュニティを結ぶ場としての公園の活用が進む
 - ・公園を拠点とする活動をきっかけとした、新たなネットワークが発生する
- ⇒具体的には…
- ・子どもの遊び場としての活用
 - ・防災訓練や地域の行事の会場として活用
 - ・健康づくりの拠点としての活用
 - ・その他、憩いの場、校外学習の場等として多様な人が気軽に活用する

(3) モデル地区の事例 その1—溝口南公園地区

①対象公園

- ・溝口南公園

②世話人会構成

- ・溝口第一町会及び溝口南公園管理運営協議会
- ・高津こども文化センター
- ・区民会議
- ・溝口南公園「公園体操」
- ・区役所

③世話人会・公園ミーティング開催状況

【世話人会】

- ・第1回 平成23年10月17日(月)
- ・第2回 平成23年11月29日(火)
- ・第3回 平成24年1月13日(金)
- ・第4回 平成24年1月30日(月)
- ・第5回 平成24年3月5日(月)



【公園ミーティング】

- ・第1回 平成23年11月16日(水)
- ・第2回 平成24年3月18日(日)

親子防災教室として実施



④世話人会・公園ミーティングから出た主な意見

- ・砂場に犬猫の糞がある。
- ・公園内にゴミが捨てられることが多い。
- ・近隣にボール遊びができる場所がない。広い公園なので、ボール遊びをしたい。
- ・小学生がボール遊びをすると、乳幼児は怖くて公園で遊べない。
- ・フリーマーケットとお祭りを連動させて開催するなど、大人も子どもも参加できるイベントを開催してはどうか。
- ・地域に根ざした防災活動を、地元の公園で実施したい。

⑤課題解決に向けた活動テーマ

- ・一時避難所としての公園の活用、公園での避難訓練など防災イベントの開催等、公園を活用した防災の取組の推進
- ・管理運営協議会と、こども文化センターの「ちょいボラ」が連動した清掃活動の実施等、世代間交流の場づくり
- ・子どもたちが公園利用のルールやマナーを学べる環境づくり
- ・利用者と管理者が一つになる雰囲気づくり

⑥課題解決に向けたアクション

- ・公園を活用した親子防災教室の開催（平成24年3月18日（日））
- ・ちょいボラと連携した公園清掃（平成24年3月24日（土）雨天のため中止）
- ・公園を活用した町内会イベントの開催（春・秋年に2回）



⑦課題解決に向けたハード整備

- ・防災ベンチ（かまど付き）の設置



(3) モデル地区の事例 その2—坂戸公園地区

①対象公園

- ・坂戸公園

②世話人会構成

- ・坂戸第二町会
- ・坂戸住宅自治会
- ・区民会議
- ・坂戸公園「公園体操」
- ・区役所

③世話人会・公園ミーティング開催状況

【世話人会】

- ・第1回 平成23年10月20日(木)
- ・第2回 平成23年11月17日(木)
- ・第3回 平成24年12月16日(金)
- ・第4回 平成24年1月26日(木)
- ・第5回 平成24年2月27日(月)



【公園ミーティング】

- ・第1回 平成23年11月27日(日)

公園ミーティング開催に向け、事前アンケート調査を実施した。



④世話人会・公園ミーティングから出た主な意見

- ・比較的離れたエリアからも遊びに来る親子も多いため、近所に住んでいない人の意見をどのように集めるかが課題だ。
- ・公園にトイレを設置するかどうかは長年の懸案である。
- ・2町会共同で管理運営協議会を組織しているが、一緒に活動する場面があまり多くなかった。モデル事業をきっかけに、2町会の連携が進むと良い。
- ・公園で普段どういった活動が行われているかという情報が共有できていない。情報共有により、さまざまな活動の時間帯・場所等の住み分けが自然に進むことも期待できる。

⑤課題解決に向けた活動テーマ

- ・利用時間・利用ゾーンの住み分けによる活用の促進等、公園で実施するイベントについての情報共有
- ・2町会の協力体制づくり
- ・フリーマーケットの開催等既存イベントの見直しによるコミュニティの活性化

⑥課題解決に向けたアクション

- ・情報共有のための掲示板の設置
- ・2町会合同によるフリーマーケットの開催

⑦課題解決に向けたハード整備

- ・情報掲示板の設置



2 「学校」を活用した新しい形のコミュニティづくり

「学校」を活用した新しいコミュニティづくりに関しては、活用の可能性や方向性、担い手や課題について検討を進めました。今期は具体的なアクションに取り組むことはなく、学校開放の参考事例の収集を行いました。

スポーツ活動が活発な高津区の地域性を活かし、学校施設の自由解放日を設定し、スポーツを通じた交流の場をつくること等がアイデアとして出されました。どのような主体が担い手となって取組を進めるのか、現在既に学校で実施している類似の行事とどのように調整を図るかといったことが、実現に向けた今後の課題と考えられます。

【委員の主な意見】

- 学校の「自由開放日」を実施するには、担い手となる団体を決めないと難しい。主体となる組織によっても、実施内容が変わってくる。
- 利用団体から構成される学校施設開放委員会と町内会自治会が学校行事の年間スケジュールを決定している。
- 学校施設の利用に当たっては、地域教育会議が中間支援組織となり、何らかの役割を担ってもらえると良い。
- 自分たちが子どもの時は、自由に学校に出入りし、異年齢の人たちと遊んでいた。遊びというコミュニケーションの場が減っている。
- NPO 法人の高津総合型スポーツクラブ SELF は、高津中学校内に事務局があり、校庭も利用している。



参考

■学校施設を活用した地域イベントの事例

区民会議が運営等に直接関わったものではありませんが、参考事例とさせていただきます、ザ・北風っ子については区民会議委員が見学をしました。

(1) ザ・北風っ子

開催日：平成24年2月12日（日）

会場：橘小学校体育館

参加人数：子ども約400人

主催：高津区子ども会連合会橘地区子ども会
ジュニアリーダー

高津区子ども会連合会橘地区子ども会の子どもたちが中心となり、子どもたち自身が企画・運営を行い、さまざまなゲームやクイズ等を行いました。また大人は、わた菓子、トン汁、焼きそば、ラムネなどの模擬店を出店し、子どもたちの活動を支援しました。

小学生・中学生が協力しながらイベントを企画し、大人はそれを支援するという運営形式で長年にわたって開催されており、地域の中でしっかりと根付いている地域イベントのモデルケースと考えられます。



(2) 高津地区子ども祭

開催日：平成23年7月24日（日） 午後4時から8時

会場：高津小学校校庭

主催：高津地区子ども祭り実行委員会

東日本大震災の影響により区民祭が中止となったことを受け、区民祭開催予定日に会場となっていた高津小学校校庭を活用し開催されたものです。焼きそば、フランクフルト、じゃがバター等の模擬店の他、移動動物園、起震車で地震体験、暗くなってからの映画上映を行いました。売上げの一部は義援金として被災地に寄付されました。

震災の影響で様々なイベントが中止となる中で、地域住民の熱意で自然発生的に企画されたもので、「新しい形」のイベントとして、今後のモデルケースとなると考えられます。



3 「町内会組織加入」に向けたアプローチ（町内会未組織地域への働きかけ）

町内会自治会の加入率向上や加入促進については、単に数字が上がれば良いという問題ではないものの、従来からのコミュニティの基盤である町内会自治会の活性化や、新たに高津区に住まう住民のコミュニティづくりの第一歩として、町内会自治会とのつながりをつくることは大切であるとの認識に立ち、具体策の検討を進めました。

特に、高津区に近年建設された一部の大規模マンションにおいては、自治会が組織されておらず、災害時の避難所の確保や近隣町内会との協力体制に不安があることから、町内会自治会未組織地域への働きかけに焦点をあて、以下のような取組を進めました。

（１）町内会連合会への協力依頼

町内会連合会としても、「町内会未組織地域への働きかけ」が喫緊の課題であるとの認識があったことから、平成23年10月に高津・橘両地区の連合町内会長に、区民会議から協力を依頼しました。

（２）地区防災訓練への参加呼びかけ

自治会未組織の大型マンションの管理組合に対して、地区の防災訓練への参加を呼びかけ、管理組合からマンション住民が参加しました。当日は、地元町会とマンション管理組合との顔つなぎができた他、防災訓練参加者は、町内会自治会組織への加入に対し、関心を持った様子でした。

その後、一部の大規模マンションにおいては自主防災組織が新たに組織されるという動きが始まっています。今後も行政や地区町連、区町連等を中心に、働きかけを継続していく必要があると考えられます。

【委員の主な意見】

- 既存の町内会の中には、役員の高齢化等により曲がり角に来ている町会もある。それぞれの構成員が、町会とは何のためにあるのか、何がニーズかを含めたマネジメント講座が開催できると良い。
- 大規模マンションに限らず、町会費や助成金などの大きな資金源のある町内会がある。新しいマネジメント手法という視点を取り入れたい。
- マンションを建てる際に、自治会を立ち上げるためにはそれなりのノウハウが必要だ。自治会がないと、後あと困るという意識を持ってもらわないといけない。
- マンションの住民の中には、平日の帰りは12時過ぎで、土日も遊びに出て地域にいない人がいる。入る必要性を感じていない。町会に入らない人の立場と問題点を把握して解決に当たらないと難しい。
- 3・11以後、町内会に加入していない人たちの町内会に対する意識の変化が起きている。町内会への参加を促すには、今が良い機会である。
- 町内会連合会と民生委員児童委員協議会が連携しなくてはならない課題がいくつもある。一度一緒に話し合いができると良い。
- 大規模マンションだけでなく、大規模な有料老人ホームについても、災害時対応の問題がある。ホームが地元の町内会自治会組織と連携を進める必要がある。

4 今後の展開に向けて

第3期は「新しい形のコミュニティづくり～地域でつながる」を審議課題とし、「3つのつながる」をキーワードとした上で、「公園の活用」「町内会組織加入に向けたアプローチ」「学校施設の活用」を中心に検討を進めてきました。「新しい形のコミュニティづくり」に向けた検討については、第3期限りで終了するものではなく、今後も継続して取り組む必要があると考えられます。今後の展開に向けて各委員へのアンケートを実施した上で、いくつかの視点から本テーマに関する活動の振り返りを行いました。

(1) テーマ「新しい形のコミュニティづくり」は妥当だったか

「人と人とのつながりを地域の中でどう育てていくか」は、分野別のさまざまな課題に取り組む際に共通する普遍的なテーマであり、区民会議の審議テーマとしては良かったという委員意見が多数でした。また、大震災発生前から、地域のつながりの必要性を取り上げたことや、包括的なテーマであり、様々な立場から議論に参加することができるという視点からも、本テーマを評価する意見がありました。

一方で、何をもって「新しい」とするのが漠然としていたため、具体的な解決策を導き出すのが困難であったことや、既存組織と新しい主体との関係性や概念の掘り下げにもう少し時間を割けなかったかという反省点も挙げられました。

また、東日本大震災を機に社会の目が防災や被災地支援に向かう中で、それらについては「コミュニティづくり」の一つの側面として取り上げるに留まったことに対しては、委員間で評価が分かれるところでした。

【委員の主な意見】

- 包括的なテーマであり方向性を示すテーマであった。
- 丁寧に選定された課題であり、高津区全体の課題としてふさわしい。
- 「新しい」が多義的であいまいな面もあるが、内容を豊富化することができた。
- これは川崎市全体の共通課題でもある。普遍的な課題だけに、具体的な解決策が難しかった。
- 都市型コミュニティを深めていく先に高津のコミュニティがある。実現困難なテーマであるが、永遠の課題として飽きずチャレンジすべきだ。
- 3・11を境に環境が変わり、課題の練り直しが必要だったのではないか。
- 東日本大震災後の社会状況と区民会議の議論に乖離を感じた。

(2) 「3つのつながる」と3つの取組について

「新しい形のコミュニティづくり」の具体策を検討するにあたり、「つながる」をキーワードに「世代間交流」「場作り」「地縁組織と分野別団体の連携」を論点としました。それに対して「公園の活用」「学校施設の活用」「町会組織加入に向けたアプローチ」について具体的な取組を検討しました。

■公園活用

「公園の活用」については、溝口南公園、坂戸公園の2つのモデル公園の地元住民や関係組織の熱心な取組により、区民会議が提案当初想定していた以上の活動に育ってきています。区民会議フォーラムの報告では、それぞれに目的意識を持ち、広がりを持って活動していこうとする姿勢が伝えられ、来場者からも「地域で取組む姿勢や、意識が一

つになっていくことの大切さが感じられた」という感想も寄せられました。現在のモデル地区での取組は今秋まで継続していくことになっていますが、継続性のある活動にすることで、防災・環境・世代間交流など様々な切り口での公園の活用が広がり、町内会自治会に限定せず、多くの人が関わることによるコミュニティの活性化が期待できます。

■ 町会組織加入に向けたアプローチ

「町会組織加入に向けたアプローチ」についても、町内会連合会の協力もあり、一部のマンションにおける自主防災組織結成につながりました。また、一連の取組を通じて、町会未組織地域に対しては、防災を一つの切り口としていくことが有効であることも明らかになりました。今後も地区防災訓練や避難所運営会議などの機会を捉えて、働きかけを継続していくことが重要と考えられます。

■ 学校施設の活用

「学校施設の活用」については、検討当初から実施主体の問題や、学校施設開放の既存の枠組みとの調整に関する課題が指摘され、残念ながら具体策の提案までは至りませんでした。しかし、審議の中でたびたび話題に上った「高津地区子ども祭り」は、関係する委員から継続開催の方向性が伝えられており、「学校」を拠点とした新しい地域づくりの気運が育ち始めていることがうかがえます。

(3) 今後の課題 ～新しい形のコミュニティづくりとは？～

前述の3つの取組については、何らかの形で次期に継続していくことで、さらに充実した成果が得られると考えられます。しかしその一方で、テーマ設定当初のねらい「3つのつながる」を思い起こし、その成果を振り返ると、具体策につながった2つの取組（公園の活用、町会組織加入に向けたアプローチ）については、町内会自治会を中心に進められており、「3つのつながる」の一つである「地縁組織と分野別団体の連携」が充分に取り上げられなかったことが反省点として挙げられます。

区民会議フォーラム講演会においても伝統的な組織に加えて、多様な主体がつながり合うことの重要性が指摘されました。「新しい形のコミュニティ」は明確な定義やイメージがあるものではありませんが、区民会議としても、NPOや市民活動団体、会社、大規模マンションなど、コミュニティの成り立ちを異なる立場から再認識し、連携を模索していくことが今後の課題と考えられます。

また、人と人が集まって楽しいというきっかけ・場があり、その結果として知り合いが増えて、関わりができていくという、ごくあたりまえのことの積み重ねの大切さについても振り返りの中で確認されました。

【委員の主な意見】

- 公園の活用は「新しい形のコミュニティづくり」の一つの形として、目に見える形で具体的に実現できた。既存の組織では成し得ない取組や催しを開催することができた。
- もっと自由な主体が活性化しながらつながっていける取組を行えると良かった。既存組織への働きかけが主になった。
- 地縁組織と分野別の団体との連携が取上げられなかったことで、市民活動団体の地域的な動きがフォローできなかった
- 人と人のつながりのどこに焦点をさぼるかを考えた時、現在は地域防災だと思う。
- コミュニティづくりに継続して取組むためのヒントが、第3期の活動で見えた。